



写真1 ラジコンヘリで撮影した近景写真（北東から）

1. はじめに

砂田遺跡は市内堀越に所在し、昔の阿賀野川右岸の小高い場所（自然堤防の上）に立地する平安時代（1,200～1,100年前）、室町時代（600～700年前）の遺跡です。

県営湛水防除事業・県道拡幅工事に伴って、昨年度9～11月に第1次発掘調査を実施しました。今年度も9月から第2次調査を開始しています。

今年度からは、市民の皆さんに遺跡発掘調査のことをより深く知っていただけるように、毎月1回「発掘調査だより」に調査の様子を報告します。なお、この「発掘調査だより」は市ホームページ（<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>）にも公開しています。合わせてご覧ください。

2. 砂田遺跡の概要

今年度の調査範囲は、昨年度調査を実施した範囲の南側になります（写真1）。地面の下からはたくさんの穴（遺構：いこう）が見つかっています。今回のたよりでは、昨年度の調査で見つかった主な遺構と出土遺物（いぶつ：土器や陶器など）についてお話しします。

【平安時代】

溝1条、柱穴1基が遺跡の真ん中で見つかっています。遺構の数は少ないですが、付近からは須恵器（灰色の硬い陶器）や土師器（素焼きの土器）などの破片がたくさん出土しました。

【室町時代】

溝1条、井戸1基、火葬土坑3基が遺跡の西側～東側で見つかりました。井戸の下には井戸枠や曲物が残っていたほかに、朱色の模様が描かれた漆器碗の一部が出土しました。遺跡の東端では火葬土坑3基が見つかりました。火葬土坑には人骨が良好な状態で残っていました。出土遺物では珠洲焼の甕・播鉢、かわらけ、青磁の破片も出土しています。

このほかに近代（おそらく明治時代）のものと思われる大型の建物3棟、近・現代の畑跡などが見つかりました。

3. 室町時代の主な遺構

【井戸】

発見された井戸は深さが2.3mもあります。井戸の底付近からは、四角く組み合わせた横棧（よこさん）と周りを囲んだ縦板の一部が見つっています。また、いちばん底には直径50cm、高さ47cmの曲物が設置されていました（写真2）。水溜めとして利用したものです。これらの木製品はすべてスギで作られています。

井戸の中からは土器や陶器のほかに、鉄製品やたくさんの植物の種子が出土しました。種子にはウメ・モモ・ナス・ウリ・イネ・ヒョウタンなどの食用植物が多く含まれています。なかでもモモの種が多く見つかりました。

【火葬土坑】

火葬土坑はその名の通り遺体を火葬した場所です。火葬の後、拾骨が行われるため、骨はほとんど残らないことが一般的です。ところが、遺跡から見つかった火葬土坑3基ともに人骨が出土しました。そのうちの1体は、部位が特定できるほどの大きな骨が残っていました（写真3）。人骨といっしょに出土した炭の年代測定の結果、約600～700年前の炭であることがわかりました。

現在、人骨は新潟医療福祉大学の奈良貴史先生に鑑定をしていただいています。今後、年齢や性別など詳しいことがわかると思います。

4. 今年度の調査

今年度の調査範囲でも井戸や火葬土坑と思われる遺構が見つっています（写真4）。また、室町時代の建物跡と考えられる複数の柱穴も見つっています。今後調査が進み、昨年度の調査ではわからなかったことを解決する資料の発見などがあるかもしれません。今後の調査にご期待ください。



写真2 井戸底に設置された曲物



写真3 火葬土坑



写真4 推定井戸跡（今年度）



写真5 作業風景（今年度）